中部地方

名前

問1　静岡県の農業の特色について、茶とみかんの生産状況や地理的背景をふまえて説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2020年 滋賀県公立入試 類似）

1. 茶の生産量は全国上位であるが、みかんの生産に関しては四国地方や九州地方に次ぐ規模であり、全国シェアは一割に満たない。
2. 明治時代に開拓された牧之原台地でみかんの栽培が始まり、現在は茶の生産を上回る主要な産品となっている。
3. 茶の生産量は全国一位であるが、みかんの生産は寒冷な北部山間部に集中しており、全国的なシェアは低い。
4. 日本一の茶の生産量を誇るほか、温暖な気候や傾斜地を活かしたみかんの生産でも全国的に高いシェアを占めている。

問2　静岡県の牧之原台地において、茶の栽培が大規模に行われている主な理由として、地形と土壌の性質の観点から説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2016年 東京都公立入試 類似）

1. 山間部で日当たりが制限されるため、新芽の成長が緩やかになるから
2. 河川の下流に位置する低湿地で、常に土壌の水分が豊富だから
3. 温暖な気候に加え、台地であるために水はけが良いから
4. 冷涼な気候であり、火山灰が堆積した肥沃な平地だから

問3　5万分の1地形図「上野原」における、ある地点の状況を説明した次の文章を読み、その地点の地形と土地利用の組み合わせとして最も適切なものを選択してください。「東西に延びる直線状の道路沿いに位置しており、その道路のすぐ北側には等高線が非常に密集している場所がある。また、道路のすぐ南側には中央本線の線路が並行して走っている。」（2019年 東京都公立入試 類似）

1. 等高線の間隔が広く、大規模な住宅団地を造成するために森林が切り開かれた場所
2. 周囲に果樹園が広がるなだらかな傾斜地で、駅前には商店街が形成されている場所
3. 北側に急な崖が迫っており、限られた平坦地に道路と鉄道が並行して通っている場所
4. 大きな河川を渡るための長い橋が架かっており、線路と道路が立体交差している場所

問4　日本のある果物の生産量上位県を見ると、1位が山梨県、次いで長野県、山形県、岡山県、福岡県となっています。この果物の栽培に適した地理的条件についての説明として最も適切なものはどれですか。（2025年 徳島県公立入試 類似）

1. 水はけが良い扇状地や、年間の降水量が少なく日照時間が長い内陸の気候が適している。
2. 冬の降雪量が多く、年間を通じて湿潤で日照時間が短い地域が適している。
3. 夏でも涼しく、保水力の高い粘土質の土壌が広がる湿地帯が適している。
4. 年間を通して温暖で雨が多く、平坦な沖積平野が広がる地域が適している。

問5　中部地方の工業、特に中京工業地帯における「輸送用機械器具製造業」の特徴について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2016年 鹿児島県公立入試 類似）

1. 自動車や航空機などの製造を指し、広大な用地と膨大な数の関連部品工場を必要とするため、裾野の広い産業構造を形成している。
2. 石炭や鉄鉱石を原料に鋼材を作る産業であり、高度経済成長期に大型の製鉄所が建設されたことで発展を遂げた。
3. 高度な技術を要する電子辞書やデジタルカメラの製造が中心であり、製品の軽量化により空港近くの内陸部に工場が集中している。
4. 海外から輸入した原油を加工して燃料や化学製品を作る産業であり、大規模な石油コンビナートが海岸沿いに形成されている。

問6　中部地方の工業地域のうち、富山県などを含む北陸地方の工業的特徴について述べた文として、正しいものはどれですか。（2025年 福岡県公立入試 類似）

1. 印刷業や食料品工業など、都市型工業の割合が他の工業地域よりも非常に高い。
2. かつては豊富な電力を利用した金属工業などが発達し、現在も化学工業や金属工業の割合が比較的高い。
3. 古くから繊維工業が盛んであったが、現在はバイオテクノロジーを用いた食料品製造が産業の9割を占める。
4. 出荷額の大部分を輸送用機械が占めており、特に自動車の生産額が全国でも突出している。

問7　静岡県島田市の地形図において、権現原周辺に茶畑の地図記号が広く見られる理由として、この地域の自然環境や地理的条件から説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2015年 千葉県公立入試 類似）

1. 島田駅や図書館などの公共施設が南側に集まっており、都市部での消費が期待できるため。
2. 大井川から大量の水を引くことが容易であり、常に湿潤な土地を好む茶の性質に合っているため。
3. 大井川沿いの台地で水はけが良く、温暖な気候が茶の生育に適しているため。
4. 寒冷な気候に強く、雪の多い地域でも安定して収穫できる作物として推奨されたため。

問8　中部地方を東西に横断する地形の断面を考えたとき、標高3000メートル級の山々が連なる「日本アルプス」の中で、最も西に位置する飛騨山脈と、最も東に位置する赤石山脈の間に位置している山脈があります。通称「中央アルプス」とも呼ばれるこの山脈の名称を選びなさい。（2023年 埼玉県公立入試 類似）

1. 鈴鹿山脈
2. 越後山脈
3. 木曽山脈
4. 奥羽山脈

問9　扇状地の土地利用について、扇央（せんおう）と呼ばれる中央部分で果樹園が多く見られる一方、水田としての利用が困難であった理由を、地形の成り立ちと関連付けて説明したものとして正しいものはどれですか。（2025年 青森県公立入試 類似）

1. 細かい泥が堆積して地盤が緩く、大型の農業機械を導入できないため
2. 川が運んできた砂や礫が厚く積もり、水が地下へしみ込んでしまうため
3. 標高が高く冷涼な気候であるため、稲の成長に必要な気温が足りないため
4. 土地が完全に平坦であり、水の流れが滞って土壌が酸性化してしまうため

問10　静岡県から愛知県にかけての太平洋沿岸部において、農業産出額の内訳をみると野菜の割合が非常に高いという特色があります。このように、大消費地である都市に向けて野菜などを生産して出荷する農業形態を何といいますか。（2023年 福岡県公立入試 類似）

1. 穀物農業
2. 近郊農業
3. 園芸農業
4. 自給的農業

問11　太平洋側の地点から日本海側の地点まで、中部地方を横断するように直線を引いた際の標高の変化を説明した文章として、正しいものはどれですか。資料としての地形断面図の特徴を踏まえて答えなさい。（2023年 石川県公立入試 類似）

1. 太平洋側から日本海側まで大規模な盆地や平坦な扇状地が連続しているため、断面図の大部分において標高の変化がほとんど見られない。
2. 内陸部に広大な平野が広がっているため、標高は一時的に上昇するものの、断面図の半分以上の区間で標高が二百メートル以下に保たれる。
3. 太平洋側の海岸部から内陸の県境付近まで標高が一定の割合で上がり続け、日本海側の海岸線に到達した地点で最も標高が高くなる。
4. 海岸線付近の海抜ゼロメートル地帯から内陸に向かって標高が急激に上昇し、赤石山脈など一千メートルを超える険しい山地を通過した後、再び日本海側へ向かって下降する。

問12　福井県南部の若狭湾で見られる、山地が海に沈んだり、海面が上昇したりすることで形成された複雑に入り組んだ海岸地形を何と呼びますか。また、その地形の利点を踏まえて答えなさい。（2023年 長崎県公立入試 類似）

1. リアス海岸
2. カルデラ
3. 砂州
4. 三角州

答え合わせ・解説

問1	答え 4 日本一の茶の生産量を誇るほか、温暖な気候や傾斜地を活かしたみかんの生産でも全国的に高いシェアを占めている。	静岡県では、明治維新後の士族授産などによって開拓された牧之原台地が日本最大級の茶産地となりました。これに加えて、黒潮の影響を受ける温暖な海岸沿いの傾斜地が日当たりを好む果樹栽培に適しているため、みかんの生産においても全国屈指のシェアを誇っています。
問2	答え 3 温暖な気候に加え、台地であるために水はけが良いから	茶の栽培には、年間を通して温暖な気候と、根が腐らないための良好な排水性（水はけ）が必要です。牧之原台地はこれらの条件を満たしているため、明治時代以降、大規模な茶園として開拓されました。また、静岡県は太平洋側に位置し、黒潮の影響で冬でも温暖なため、茶の生育に適しています。
問3	答え 3 北側に急な崖が迫っており、限られた平坦地に道路と鉄道が並行して通っている場所	地形図において等高線が密集している部分は、傾斜が急な「崖」や「急斜面」であることを示しています。道路の北側に崖があり、南側に鉄道の地図記号が並行しているという記述から、山地や段丘崖と河川に挟まれたわずかな平坦地を、道路や鉄道といった交通インフラが効率的に利用している状況が判断できます。
問4	答え 1 水はけが良い扇状地や、年間の降水量が少なく日照時間が長い内陸の気候が適している。	生産量上位の山梨県や長野県、山形県などに共通する甲府盆地などの内陸部では、水はけの良い扇状地が発達しており、昼夜の温差が大きく日照時間が長い気候がぶどう栽培に適しています。
問5	答え 1 自動車や航空機などの製造を指し、広大な用地と膨大な数の関連部品工場を必要とするため、裾野の広い産業構造を形成している。	輸送用機械器具製造業の代表例である自動車産業は、一つの製品を完成させるために数万点の部品を必要とします。そのため、中部地方には組み立て工場だけでなく、部品を供給する関連工場が数多く集まっており、製造品出荷額において他業種を圧倒する規模となっています。他の選択肢は、電気機械、石油化学、鉄鋼業についての説明です。
問6	答え 2 かつては豊富な電力を利用した金属工業などが発達し、現在も化学工業や金属工業の割合が比較的高い。	北陸地方の工業は、日本海側の豊かな水資源を背景とした水力発電による電力を基盤に発展してきました。そのため、電力消費の多い化学や金属といった分野が強みを持っており、統計資料においてもこれらの分野が一定の割合を維持している点が、他の地域（輸送機械が強い東海地方など）との明確な違いとなります。
問7	答え 3 大井川沿いの台地で水はけが良く、温暖な気候が茶の生育に適しているため。	茶の栽培には、年間を通じて温暖な気候であることと、根腐れを防ぐために水はけ（透水性）が良い土地であることが重要です。島田市を流れる大井川周辺の台地や斜面は、砂礫質の土壌が多く水はけに優れているため、大規模な茶園が発達しました。選択肢にある「図書館が南にある」といった情報は土地利用の直接的な理由にはなりません。
問8	答え 3 木曽山脈	中部地方の中央部には、北から順に飛騨山脈（北アルプス）、木曽山脈（中央アルプス）、赤石山脈（南アルプス）という3つの険しい山脈が並んでおり、これらを総称して日本アルプスと呼びます。断面図において飛騨山脈と赤石山脈の中間に位置する標高2000メートル以上の険しい山脈は、木曽山脈に該当します。
問9	答え 2 川が運んできた砂や礫が厚く積もり、水が地下へしみ込んでしまうため	河川が運搬してきた土砂のうち、比較的大きな粒である砂や礫が扇状地の中央部に堆積します。このような地層は隙間が多く、地表を流れる水が地下に潜り込んでしまう「伏流（ふくりゅう）」という現象が起こります。その結果、地表で水を蓄えることが難しくなるため、大量の水を必要とする水田には向かず、水はけの良さを活かした果樹栽培や、古くは桑畑として利用されてきました。
問10	答え 3 園芸農業	中部地方の太平洋側は、東京や名古屋、大阪といった大都市圏の中間に位置しています。この立地条件と発達した交通網を活かして、都市の需要に応じた野菜や花などを生産し、付加価値を高めて出荷する園芸農業が発展しました。
問11	答え 4 海岸線付近の海抜ゼロメートル地帯から内陸に向かって標高が急激に上昇し、赤石山脈など一千メートルを超える険しい山地を通過した後、再び日本海側へ向かって下降する。	中部地方の中央部には「日本の屋根」とも称される飛騨・木曽・赤石の3つの山脈（日本アルプス）が南北に走っています。これらを横断するルートの地形断面図を作成すると、海岸から一気に標高が上がり、3000メートル級の山々を含む高峻な地形を示すのが特徴です。選択肢にある赤石山脈は南アルプスとも呼ばれ、この地域を象徴する山脈の一つです。
問12	答え 1 リアス海岸	若狭湾は、リアス海岸と呼ばれる複雑な海岸線を持っており、波が穏やかな入り江が形成されやすいため、天然の良港として漁業や船舶の避難場所などに利用されてきました。福井県から京都府にかけての海岸線にこの特徴が強く見られます。